

勉強は未来を開く

—多様な選択肢のある人生を目指して—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

ゴールデン・ウィークに入り、天気の良い日が続いています。皆さんはどのようにお過ごしでしょうか。

(2)栃木県内の観光業の方々は、お客様が来なくて本当に大変です。第二次災害と言ってもよいくらい、お客様が来なくて困っています。ですから、県内の方々はぜひ栃木県の温泉地に行かれて、できれば1～2泊していただきたいと思います。宿泊が御無理な場合は日帰りでもよいので、近くの温泉地に行ってリフレッシュをしていただけると、こんなに有難いことはありません。

(3)また、栃木県内のレストランやホテルもお客様が少なくて本当に困っています。ですから、自粛などと言わずに、たまにはレストランやホテルで外食をしておいしいものを食べていただきたいと思います。自身もリフレッシュできて元気になり、コミュニケーションにもなるとと思います。

(4)このようなときだからこそ、県内の温泉地やレストラン・ホテルに出掛けていただけますよう、よろしくお願い致します。

2. 勉強は未来を開く—多様な選択肢のある人生を目指して—

(1)さて、栃木県内には、犯罪を犯した方を立ち直らせる更正施設がたくさんあります。その一つが、女子刑務所として非常に有名な栃木刑務所です。

栃木刑務所には、もう少し基礎学力を身に付けたほうがよいという方が何人かいらっしゃいます。そこで、開倫塾では3か月コースの「基礎学力養成講座」を設け、先生を派遣して教えさせていただいています。

その開講式を先週の金曜日(4月22日)に行いました。私は開講式にはいつも行かせていただき、受刑者の皆さんに開講のあいさつをしております。今日は、そこでお話した内容を少し紹介させていただきます。

(2)学校でも、刑務所でも、企業でも、その他のいろいろなところでも同様ですが、勉強するときには気構え、つまり自覚を持ってすることが大事です。私は、どこで勉強する場合でも、たとえ刑務所であっても、自覚を持って勉強していただきたいと思っています。

自覚を持って勉強するためにまず考えたほうがよいのは、何のために勉強するのかということ

です。これは、自分のためでもあるし、また、勉強するといろいろな職業に就くことができますので、よい仕事をするため、お客様のためでもあります。よい仕事をするため、お客様のためになるということは、最終的には社会のためになることです。ですから、勉強は自分のためになり、よい仕事をするด้วยお客様のためになり、最後は社会のためになると考えるとよいでしょう。

(3)次は、勉強は役に立つのかということです。これは、非常に役に立ちます。勉強に限らず、役に立たないことはやってもおもしろくないと思います。ですから、ものごとを行うときは、これが役に立つのか立たないのかを考えるとよいと思います。

役に立つことはたくさんあると思いますが、勉強することほど役に立つものはありません。どこで役に立つかと言いますと、生活をする上で、仕事をする上で勉強は役に立ちます。さらに、新しいことを知る上でも勉強は役に立ちます。例えば、宇都宮市に住む柴田トヨさんという方は、90歳になってから詩の勉強をし、毎週1つの詩を作り続けて98歳のときに「くじけないで」という詩集を出し、150万部も売れました。私は、柴田さんの詩が大好きで、今日も読ませていただきました。柴田さんは今年100歳になるので、2冊目の詩集を出すそうです。100歳というお歳になられても新しいことを知ることに関心が旺盛で、一所懸命に勉強なさっておられます。そして、100歳になったら、また、新しい詩集を出されるそうです。柴田さんのような一生が送られたらいいなと思います。

(4)それから、勉強をすることは、多様な選択肢のある人生を目指し実現するのに役立ちます。勉強が不足すると、資格が取れなかったり、いろいろなことがよくわからなかったりして、人生の選択肢が少なくなります。いろいろなもの・多様な選択肢の中から自分の進路・人生を選ぶことができずに、それしかできなくなってしまうと、最終的には犯罪を犯す以外にないというところまでいってしまうこともあります。

(5)一方で、勉強をすると、Aの場合・Bの場合・Cの場合……と選択肢が増えてきます。つまり、物を買うときやサービスを受けるときだけではなく、人生の上でいろいろな判断をするときや自分の進路を決めるときに選択肢が増えますので、勉強は役に立つのです。

(6)さらに、勉強の仕方も大事です。一番よいのは、積極的に勉強することです。わからないことがあったらどんどん質問し、本を読んでいてわからないことばに出合ったら辞書をどんどん引くようにしましょう。

(7)大切なのは、自分で身に付けていることばです。知っている・身に付けていることばの数が多ければ多いほど知識の量が増しますので、ことばの数を増やすことが大事です。ですから、本や新聞を読んでいるときにわからないことばに出合ったら、気持ちが悪いと感じ、先に進まずに、手元に用意しておいた辞書でその意味を調べることが大事です。とりわけ「～は…だ」ということばの意味(難しく言うと、ことばの定義)を、その場でしっかりと覚えることが大事になります。できれば、ことばの意味をノートにきちんと書き写しておき、繰り返し繰り返し復習すると一層身に付きます。

(8)ところで、学習したことは、理解はできても身に付かないことが多いです。何回もお話して恐縮ですが、声を出して繰り返し読むと覚えることができます。つまり、学習内容を身に付けるに

は、声を出して読む「音読練習」が大事なのです。

加えて、「書き取り練習」も大事です。受刑者の皆さんは非常に不自由な立場にいますから、十分なノートや筆記用具が身近にない場合もあります。そのようなときは、手のひらに書いて漢字を覚えたり、手のひらを使って計算練習をするとよいと思います。

このように、音読練習と書き取り練習、計算練習をして、よくわかったことを身に付けましょう。

(9)「練習は不可能を可能にする」ということばがあります。不可能を可能にするには練習しかないのです。

(10)読書をする、思慮深さが身に付きます。ですから、一度読んで気に入った本は、同じ本を何回も何回も声を出してゆっくりと読んで、思慮深さを身に付けるとよいと思います。また、新聞を読んで、自分で考える力を身に付けるとよいと思います。自分の目の前で起こっていることがどんなことなのかを自分で考える力、これは少しおかしいのではないかと考える力のことを、批判的思考能力と言います。新聞を読むと批判的思考能力が身に付きますので、これも素晴らしいことです。

(11)つまり、読書をし、新聞を読むことにプラスして勉強の仕方を身に付け、学力を向上させることが大事であると思います。

3. おわりに

このようなことを、先週の金曜日(4月22日)に栃木刑務所で行われた「基礎学力養成講座」の開講式のあいさつでお話させていただきました。どのような場所においても、勉強することほど貴いことはありません。自分の未来を切り開くため、仕事で役に立つため、社会で役に立つために一所懸命に、一つの所で命を懸けるくらい熱心に折角与えられた場所で勉強して、多様な選択肢のある人生を目指していただきたい。そのような内容をお話しました。

皆さんは、どのようにお考えでしょうか。

[コメント]

栃木刑務所で年に何回も行われている基礎教育講座の開講式と修了式で、このような内容のあいさつを受刑者の皆様にさせていただいている。自覚を持って学ぶこと、勉強の仕方をよく工夫し、特に定着の仕方を工夫して学ぶこと、勉強することで人生の選択肢を増やし、社会に出て、今度こそ自分にとっての人生の成功と正常に機能する社会の形成を行ってほしい。このような願いで、今回もお話させていただきました。

2012年1月31日改訂